

■受験校って、どうやって決めるの？

群馬県内にある数校の選択肢から受験校を決める高校入試と違い、大学入試は全国にあるたくさんの大学の中から受験校を決めることになります。当然選択肢も様々です。そこで、今回は多くの選択肢のなかからどのようにして受験校を決めていくのか、ということについての基本的な考え方をまとめてみました(今日の3学年集会での話とリンクさせています)。戦略的な話にもなるので1・2年生にとってはピンとこない部分もあるはずですが、3年生になったときの予習のつもりで考えてほしいと思います(ここでは一般入試を念頭においています)。

受験校を決める最大の決め手は当然「そこに自分の学びたいことがある」ことです。ですが、全国を視野に入れればその希望を満たしてくれる大学は結構たくさんあります。もしかしたら「やりたいこと」がいくつもある人もいるかもしれません。そうすると、更に候補となる大学は増えるでしょう。その大学に合格するために必要な力(難易度)も様々ですが、1・2年生のうちには研究のレベルや環境などを考えれば目標は高めに設定しておくべきでしょう。ただ3年生になるとそこに現実的な要素(つまり、学力)が入ってくるため、自分の実力と目標をすり合わせていく作業が必要になってきます。特に共通テストと個別試験の成績の合計で合否が決まる国公立大の場合は、共通テストの結果をもとに出願校を決めるわけですから、共通テストの結果により複数の選択肢を用意しておく必要があります。その際に目安として考えるのが

αプラン・βプラン・γプラン

です。

受験候補校は、現在の学力と比較すると、

- ・目標校(もう少し頑張れば何とか届けたい)
- ・実力相応校(このまま行けば受かりそう)
- ・安全校(多少失敗しても合格が見込める)

の3グループに分けられます。模試判定だと目標校はC~D(E)、相応校はB~C、安全校はA~Bといった感じでしょうか。当然一番行きたいのは目標校のはずですよ。

受験計画を作るにあたっては、このことを念頭に置いて受験校の準備をしておくのです。つまり、共通テストを受験した結果、

- ・想定通りの好結果なら、αプラン(挑戦!)
- ・やや想定を下回ったら、βプラン(相応校)
- ・想定をかなり下回ったら、γプラン(安全校)

としておくことになります。

例えば北海道大(文)を第一志望としている生徒が考える受験プラン例としては

	αプラン	βプラン	γプラン
共通得点	76%~	70~75%	~70%
前期	北海道大(文)	千葉大(文)	新潟大(人文)
後期	信州大(人文)	新潟大(人文)	山形大(地域教育)

東北大(工)を第一志望としている生徒が考える受験プラン例としてはこんな感じでしょうか。

	αプラン	βプラン	γプラン
共通得点	80%~	70~80%	~70%
前期	東北大(工)	千葉大(工)	埼玉大 群馬大
後期	埼玉大(工)	群馬大(理工)	群馬大(理工)

注:あくまで一例であり得点率等は仮の数字です。

ここで大事なのが、「共通テストを受験する前に3パターンを考えておく」ことなのです。共通テストが終わればすぐに私大受験が始まり国公立大受験まで怒涛の1か月を迎えます。そのスタート時に、「共通テスト失敗した一、さてどこを受けるか」と初めて考えるようでは貴重な時間を大きくロスします。自己採点の結果が出たら機械的に(言い方は悪いですが)志望校を決められて(そして、腹をくくって)すぐに受験の準備を始めることが大事。そのために2学期のこの時期に「あらゆるパターンを想定しておく」ことに意味があるのです。

第一志望の大枠が決まればあとは後期の受験校と私大の受験校です。前期試験が不合格だった場合は私大合格校の最上位校と後期国公立大との比較にな

りますが、「できれば国公立」の優先度が高い場合は後期の大学も当然きちんと考えておく必要があります。近年後期試験を実施する大学は減少傾向にありますが、少ない選択肢の中から選ぶこととなりますので選択は意外に難しいものです。基本的には前期受験校との兼ね合いになりますが、

前期でややチャレンジ→後期は手堅く
前期で堅実に→後期も同程度または手堅く

というのが基本線かと思われます。

そして最後は私大の受験校です。「国公立一本なので私大は行かない」という人もいるかもしれませんが、最優先の国公立大の受験を優位に進めるためにも私大受験は有効に使いたいものです。メリットは

- ・緊張感のある会場での受験で場慣れができる
- ・1つの合格が心の安定を生み出す
(この時期としては最高の御守りになる)

ことなどでしょう。本命校の受験までに合格校が1つもない、というのは思いのほかキツイんだよね（と、経験者は皆口を揃えて言います）。負担を減らすための共通テスト利用受験や、地元（前橋・高崎）で受験できる私大もたくさんあります。12月入試で合格を1つ取りに行くというのもひとつの手です。私大の受験は、日程や方式など、それぞれ無数の選択肢が発生しますので、実は国公立大以上にスケジュールリングが重要になります。私大受験プランのポイントとしては

- ①共テ利用入試を活用して日程に余裕を設ける
- ②基本的には易→難の順に受ける
- ③受験日程には適度な間隔を空ける
- ④自分に有利な受験方式、試験日を選ぶ
- ⑤受験期間も学習時間を確保できるようにする

などが挙げられます。また、手続きや入学金支払い期限なども考えて、なるべく経済的な負担が少なくなるよう（余計なお金を払わなくて済むよう）にしたいものです。そのために必要になってくるのが「受験カレンダー」となります。出願期間・試験日・合格発表日・手続き締め切り日などを一覧にまとめることで、受験期間の生活の見通しが明確になります。今ではスマホのアプリ等での管理もできますが、やはり自分の手で作成し（何度も書き直しながら）、常に携行している、ということにも意味があります。私大受験校については「みちしるべ」に過

去の前女生が受験した私大ベスト20が載っていますので参考にしてみるのもよいでしょう。

結論としては、「綿密な事前準備が余裕のある受験を生む」ということでしょうね。

■チームOGからのメッセージ

大学は10月から新学期（後期）開始というところが多いようです（羨ましいですね）。今週もまた卒業生が応援メッセージを寄せてくれました。

群馬大学医学部医学科1年のWです。大学は長い夏休みが終わって後期に入りました。専門科目が少しずつ増えてきて、わくわくしています。

さて、10月や11月というと、3年生は受験のプレッシャーを感じる時期だと思います。秋は模試がたくさんあるので精神的にも身体的にも大変でした。また、群馬大学の推薦入試に挑戦することになり、秋は推薦対策も行っていました。私は特に面接練習を重点的に行いました。医学に関する知識を入れること、医療ニュースを調べることにかなりの時間を割いていました。十分な準備が本当に役に立ったと思っています。私は面接でワクチンに関する知識が聞かれました。各大学の特色を調べるだけでなく踏み込んだことも調べておいたことで、面接で堂々と話せると思います。

そして最後に、群馬大学医学祭が28日・29日に昭和キャンパスで行われます。医学生による相談会や各部活による出店があるので是非お越しください！

受験勉強を頑張る3年生のみなさん、毎日お疲れ様です。受験期の心持ちについて書かせていただきますが、少しでも励みや参考になれば幸いです。

私が受験期を過ごした際、常に自分に言い聞かせていたことは、「自分がやってきたことに自信を持つ」ということです。この時期、点数などの結果ばかりを気にしてしまいがちですが、今までの積み重ねにも目を向けてほしいと思います。自分を振り返ってみて、後悔の気持ちなどを抱くかもしれませんが、それだけではなく、自分が努力したことや工夫したことも思い浮かぶはずですよ。自分の頑張りを認めてあげながら、これからもとにかく“前向きに”走り続けてください。それと、健康は何よりも大切です。応援しています！